

北九州医療・介護連携プロジェクト

「医療・介護連携ルール」活用状況調査（結果）

令和8年3月

1. 「医療・介護連携ルール」活用状況調査（対象：ケアマネ事業所）

1. 調査目的

- 北九州医療・介護連携プロジェクトの中心的な取組みである
「とびうめ@きたきゅう」や「医療・介護連携ルール」の運用状況等を把握するための調査を、前年度に引き続き実施。

2. 調査概要

- 病院からケアマネ事業所へ、利用者が入院された際に連絡が来ているか（「医療・介護連携ルール」が運用されているか）について、調査票を市内の全ケアマネ事業所に送付し、回答状況を集計。

3. 調査期間

- 令和7年11月24日（月）から同年12月19日（金） ※約1か月間

4. 回答率

- 47.2%（175/370事業所）※小規模多機能型居宅介護を含む
《昨年度 41.5%（152/366事業所）》

5. 調査期間中の入院件数

- 561件（救急入院・当日入院・その他入院）
《昨年度 497件》

○結果要点

【病院→ケアマネ事業所への入院連絡】

- ① 入院3日以内に連絡があった **283/561件 (50.4%)** 《昨年度 47.3%》
- ② 入院4日以降に連絡があった 17/561件 (3.0%) 《昨年度 2.4%》
- ③ 連絡がなかった (家族等から連絡あり) 261/561件 (46.5%) 《昨年度 50.3%》

【ケアマネ事業所→病院への情報提供】 <病院からの入院連絡あり (上記①+②) を集計>

- ① 3日以内に情報提供をした **209/300件 (69.7%)** 《昨年度 76.9%》
- ② 4日以降に情報提供をした 14/300件 (4.7%) 《昨年度 4.0%》
- ③ 情報提供していない 77/300件 (25.7%) 《昨年度 19.0%》

* 参考:全ての入院 (571件) における「ケアマネ事業所→病院への情報提供」の割合

全入院種別		全体 (N=561件)	左のうち、「病院からの連絡」が	
			<u>あり</u> の場合 (N=300件)	<u>なし</u> の場合 (N=261件)
	情報提供をした	69.3%(389件)	74.3% (223件)	63.6% (166件)
上記内訳	入院を知って3日以内	64.3%(361件)	69.7%(209件)	58.2%(152件)
	入院を知って4日以降	5.0%(28件)	4.7%(14件)	5.4%(14件)
	情報提供なし	30.7%(172件)	25.7%(77件)	36.4%(95件)

➡病院からの連絡があり(74.3%)の方がなし(63.6%)に比べ**10.7pt**情報提供した割合が高い

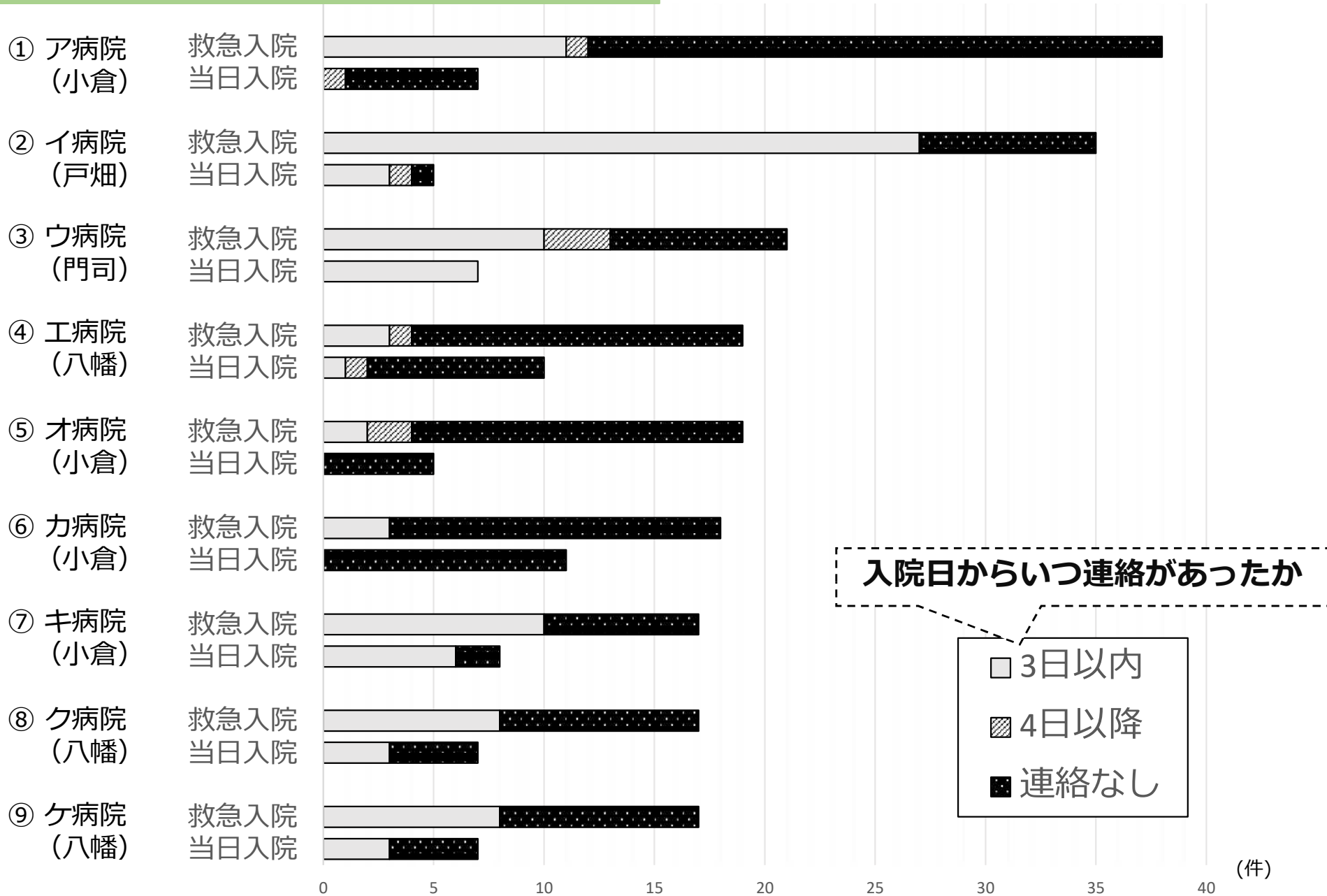
ケアマネ事業所から見て「誰から利用者入院の連絡があったか」

連絡をくれた相手方			連絡があった割合（件数）	
病院	家族	その他		
医療・介護連携ルール上のルート	○	○	○	2.3%(13/561件)
	○	○		23.2%(130/561件)
	○		○	6.2%(35/561件)
	○			14.4%(81/561件)
		○	○	2.7%(15/561件)
		○		31.6%(177/561件)
			○	19.6%(110/561件)
46.2% (259/561件)	59.7% (335/561件)	30.8% (173/561件)	その他…本人、施設職員、サービス事業所など	
(49.7%(247/497件)	59.0%(293/497件)	29.4%(146/497件)	←参考：昨年度)	

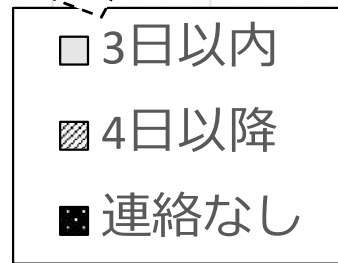
- **病院⇒家族⇒ケアマネ事業所** の入院連絡ルートは、昨年度に続き**最も多い**
 - しかし、医療・介護連携ルール上の入院連絡ルート **病院⇒ケアマネ事業所** はケアマネ事業所からの**情報提供率の向上**にもつながっており、**重要なルート**と言える
- ➔ プロジェクトで策定した『医療・介護連携ルール』のさらなる徹底が必要

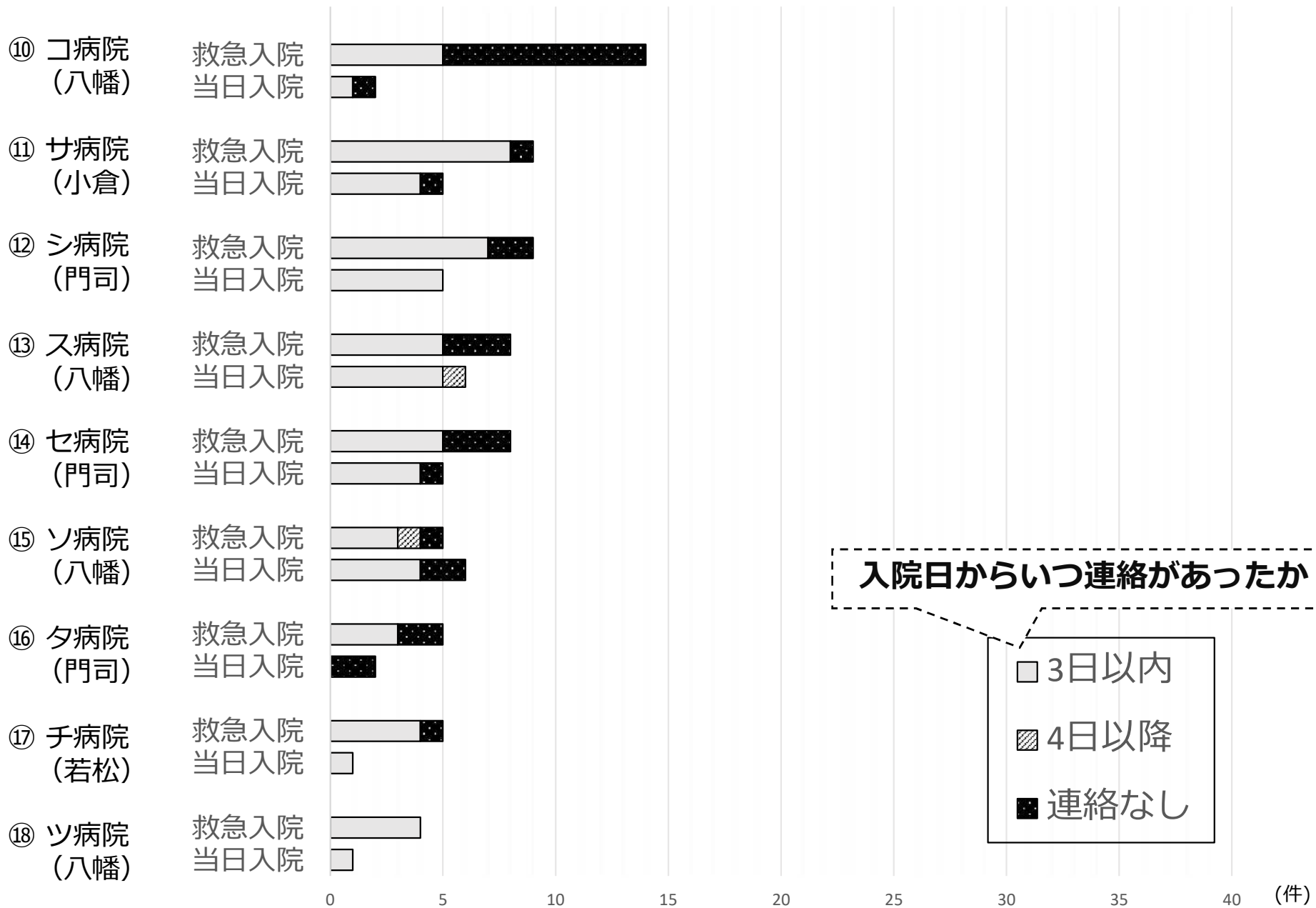
病院からケアマネ事業所への「利用者が入院しました」の連絡

※R7.11.24～R7.12.19の入院者(救急入院、当日入院)について、市内のケアマネ事業所に調査したもの



入院日からいつ連絡があったか





入院日からいつ連絡があったか

- 3日以内
- ▨ 4日以降
- 連絡なし

それぞれの病院内でも
ケアマネ事業所への入院連絡の対応に差

1. (3) ⑩ 入院時情報連携加算の見直し

概要

【居宅介護支援】

- 入院時情報連携加算について、入院時の迅速な情報連携をさらに促進する観点から、現行入院後3日以内又は入院後7日以内に病院等の職員に対して利用者の情報を提供した場合に評価しているところ、入院当日中又は入院後3日以内に情報提供した場合に評価するよう見直しを行う。その際、事業所の休業日等に配慮した要件設定を行う。
【告示改正】

単位数・算定要件等

※ (I) (II) いずれかを算定

< 現行 >

入院時情報連携加算 (I) 200単位/月

利用者が病院又は診療所に入院してから3日以内に、当該病院又は診療所の職員に対して当該利用者に係る必要な情報を提供していること。



< 改定後 >

入院時情報連携加算 (I) **250**単位/月 (変更)

利用者が病院又は診療所に入院した日のうちに、当該病院又は診療所の職員に対して当該利用者に係る必要な情報を提供していること。

※ 入院日以前の情報提供を含む。

※ 営業時間終了後又は営業日以外の日に入院した場合は、入院日の翌日を含む。

< 現行 >

入院時情報連携加算 (II) 100単位/月

利用者が病院又は診療所に入院してから4日以上7日以内に、当該病院又は診療所の職員に対して当該利用者に係る必要な情報を提供していること。



< 改定後 >

入院時情報連携加算 (II) **200**単位/月 (変更)

利用者が病院又は診療所に入院した日の翌日又は翌々日に、当該病院又は診療所の職員に対して当該利用者に係る必要な情報を提供していること。

※ 営業時間終了後に入院した場合であって、入院日から起算して3日目が営業日でない場合は、その翌日を含む。

➔ **R6介護報酬の改定に伴い、ケアマネ事業所から病院への入院当日の情報提供は速やかな連携開始だけでなく、介護報酬の増にもつながる**

<参考>「ケアマネ事業所→病院」への情報提供時期の状況 （「入院日」－「情報提供日」）

※情報提供の日数算出に際し、
土日等は加味していない
（単純計算で算出）

区分	計 (N=561件)	左のうち 「病院→ケアマネ事業所」への入院連絡が		
		<u>あり</u> (N=300件)	<u>なし</u> (N=261件)	
情報提供あり	入院 当日 (入院前含む)	45.8% (257件)	49.3% (148件)	41.8% (109件)
	入院 翌日	14.4% (81件)	15.3% (46件)	13.4% (35件)
	入院 翌々日	4.1% (23件)	5.0% (15件)	3.1% (8件)
	上記以降	5.0% (28件)	4.7% (14件)	5.4% (14件)
情報提供 なし	30.7% (172件)	25.7% (77件)	36.4% (95件)	

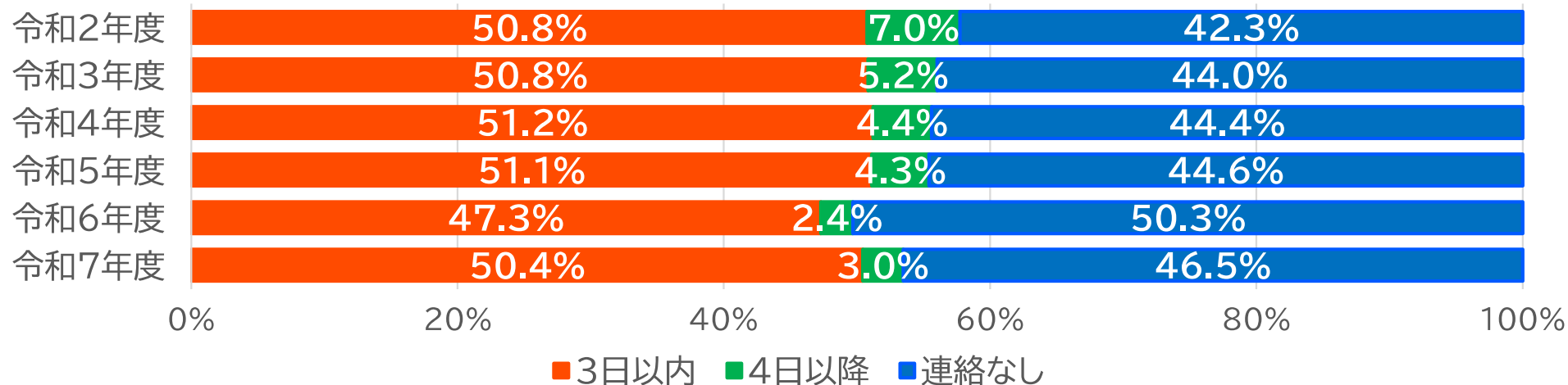
- 「病院→ケアマネ事業所への入院連絡」があるほうが、
入院『当日～翌々日』に情報提供をする割合が高い結果
- ➔ 入院時の迅速な情報連携を推進する観点からも、
病院からケアマネ事業所への速やかな入院連絡が効果的

■まとめ（ケアマネ事業所調査）

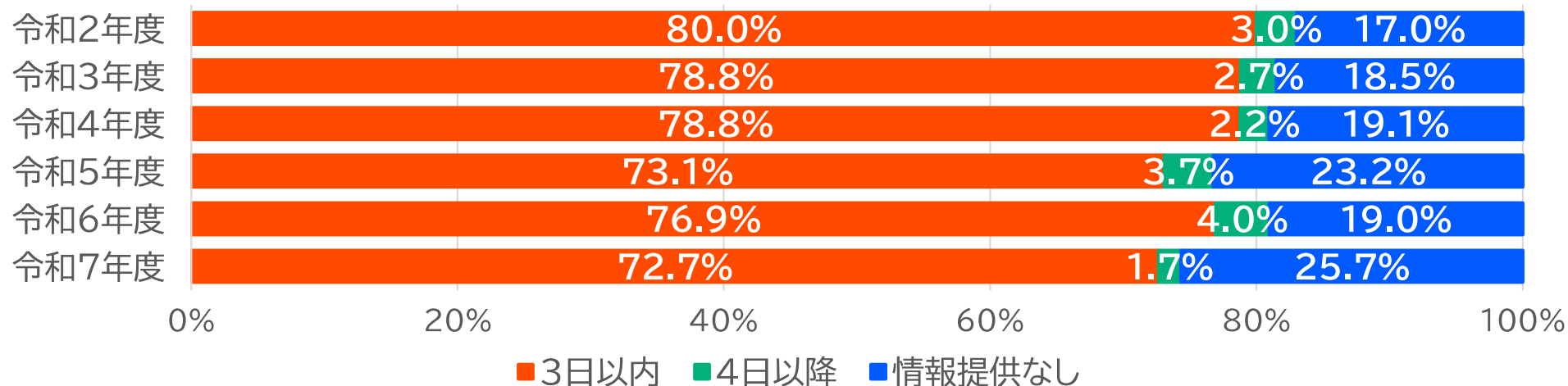
- 『医療・介護連携ルール』の運用状況については、大きな変化はなかった。
 - ・ 「病院→ケアマネ事業所」への入院3日以内の連絡
… **50.4%**（昨年度47.3%より上昇）
 - ・ 「ケアマネ事業所→病院」への連絡後3日以内の情報提供
… **69.7%**（昨年度76.9%より減少）
- ケアマネ事業所に利用者の入院の連絡をくれた相手方で、最も多かったのは、前回に続き「家族」の59.7%で、「病院」は46.2%であった。
- それぞれの病院内でも、ケアマネ事業所への入院連絡の対応に差がある。
- 病院からケアマネ事業所に入院連絡をしない場合に比べ、病院からケアマネ事業所に直接連絡した場合の方が、ケアマネ事業所からの情報提供率の向上（+10.7pt）につながっている。
- 加えて、病院からケアマネ事業所への入院当日の連絡は、迅速な情報連携の推進を図るうえでも効果的であり、介護報酬の評価（加算）にもつながる。
- より迅速な医療・介護の連携促進に向け、介護報酬の評価の趣旨も踏まえた『医療・介護連携ルール』の周知を図ることが有用と思われる。

○参考：調査結果の推移

病院→ケアマネ事業所への入院連絡



ケアマネ事業所→病院への情報提供(病院からの入院連絡「あり」のみ集計)



○病院 → ケアマネ事業所への利用者入院の連絡の有無と日数 (病院からの連絡日 - 入院日)

病院からの連絡の有無と日数	全入院種別 (N=561件)	内 訳		
		救急入院 (N=292件)	外来受診後の 当日入院 (N=147件)	その他の入院 (N=122件)
あり	53.5%(300件)	52.4%(153件)	51.7%(76件)	58.2%(71件)
上記内訳	入院3日以内	48.6%(142件)	48.3%(71件)	57.4%(70件)
	入院4日以降	3.8%(11件)	3.4%(5件)	0.8%(1件)
なし	46.5%(261件)	47.6%(139件)	48.3%(71件)	41.8%(51件)
病院から連絡がなかった (病院以外から連絡があった)				

○上記「あり」のうち、
ケアマネ事業所 → 病院への情報提供の有無と日数 (情報提供日 - 病院からの連絡日)

病院からの連絡後の 病院への情報提供の有無と日数	病院から連絡 (N=300件)	内 訳		
		救急入院 (N=153件)	外来受診後の 当日入院 (N=76件)	その他の入院 (N=71件)
情報提供をおこなった	74.3%(223件)	75.8%(116件)	75.0%(57件)	70.4%(50件)
上記内訳	連絡後3日以内	75.2%(115件)	75.0%(57件)	64.8%(46件)
	連絡後4日以降	0.7%(1件)	0.0%(0件)	5.6%(4件)
情報提供なし	25.7%(77件)	24.2%(37件)	25.0%(19件)	29.6%(21件)

○参考：北九州医療・介護連携プロジェクトについての意見

<「とびうめ@きたきゅう」について>

- ・ 登録していても、医療機関や救急搬送時における利用状況が実感しにくい。
- ・ 登録者については、入院後に医療機関から連絡があり、スムーズに情報共有できている。
- ・ マイナンバーカードの普及に伴い、本システムの必要性に疑問があり、積極的な勧奨に至っていない。
- ・ 今後の介護情報基盤の整備にあたり、マイナンバーカードと、とびうめ@きたきゅうを紐づけし、ケアマネージャーも閲覧・活用できるようにしてほしい。
- ・ 登録が任意で申込みが必要であり、説明や手続きの負担があるため登録者が伸びにくい。

<医療・介護連携ルールについて>

- ・ 緊急入院時の情報が把握しやすくなった。
- ・ 病院との連携、ケアマネージャーへの連絡は意識が高くなっていると感じる。
- ・ 以前より病院からの連絡が増え、病院との連携がはかりやすくなった。
- ・ 本人や家族から入院の連絡があった際には、病院窓口ガイドを使用し入院先の病院に情報提供を行っている。

<病院窓口ガイドについて>

- ・ 病院ごとの連絡窓口や担当者が分かりやすく、情報提供時に大変助かっている。
- ・ 連絡先をすぐに確認できるため、日常的に活用しやすい。
- ・ 病院窓口ガイド通りに連絡しても、ガイドと違う対応されることもあった。情報提供を受ける事務職さん等にも、情報提供がある旨の理解が進むと大変ありがたい。

○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど①

<良くなった点>

- ・ 入院や本人の状態、カンファレス等の日程など、こまめに連絡をいただける病院が増えた。
- ・ 病院によるが、情報共有しやすくなり、医療と介護の連携は良くなった。
- ・ 病名や症状などを詳しく説明してくれるようになった。
- ・ 病院から、入院の情報を早くもらえるようになり、家族からの連絡が遅くなっても早急に連携がとれるので助かっている。本人の状況を詳しく知ることができるようになり、入院前の状況などもしっかり伝えることができる。
- ・ 入院前の生活状況を病院側へ伝えることで、退院後の生活について一緒に検討できるので、スムーズに在宅又は施設入所ができる。入院中の本人の経過（治療やADL等）がわかる。
- ・ 退院サマリーがあると、入院中の病状やADLが把握しやすいので、退院後のケアがスムーズにできる。
- ・ 退院後の際の連携も取りやすく、在宅復帰に向けての調整がしやすくなっている。

<お困りごと>

- ・ 状態を確認したくても（入院理由等）、「個人情報なので」や「ご家族から聞いてください」と言われる。老々介護等で、ご家族も理解できていないことが多いので困っている。
- ・ 情報提供（状態など）を依頼しても、「医師でないので答えられない」と言われ、入院中の状態が分からないことがある。
- ・ 連携をしたくても連絡しても、分かる人になかなか繋いでいただけない。

<お困りごと（つづき）>

- 病院によってはまだ連絡をくれない。
- 医療機関により連携対応は様々であり、情報提供をしても受け取られているか、活用されているか不明である。
- 情報提供をしても、退院時連絡がない場合があり、対応に困る。
- カンファや何かあった際の連絡の希望を伝えているが、退院日の数日前や前日に本人や家族から連絡があって初めて知る事が多い。
- サービス調整があるため退院決定の連絡をお願いしたが、退院の当日の連絡がある。
- 病院側の加算算定のため書類の請求はされるが、退院時の在宅支援再開に情報提供が間に合わないケースが多い。
- 入院先の病院内で転棟した場合に情報が申し送られてないことが多い。
- 退院した際、最初の病院に渡した介護情報が転院先に渡っていないことがあり、再度転院先に渡すことがある。転院時に医療情報と一緒に介護情報をきちんと渡してほしい。
- 家族の迎え（退院時）ができない時、ケアマネジャーに迎え依頼の電話がある。
- 家族ではないが、持ってきてほしいものまで病院から連絡がある時もある。
- ある病院は面会が出来ない。そのため1度も本人にあわないまま退院してくる事になり在宅では不安。

○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど③

<その他>

- 情報連携により、退院時の連携もとりやすくなっているように思う。
- 入院が発生した際には、ご家族から連絡をいただくことが多く、ケアマネから病院へ連絡している事が多い。
- 情報提供後はカンファレンスなど連絡をいただけると助かる。
- 担当の相談員に連絡すると、代表の相談員が出て、「折り返し電話させます。」と言ったきり、二日後に連絡があった。
- 一年に何度も入院が必要な利用者があり、入院のたびに『入院連絡票（質問数が多く、記入が大変な書類）を出すように言われる。マイナンバー保険証に変わり、国はDXを推奨しているのに、紙ベースの書類を多く提出しなければならず負担である。